

NHK長尾香里記者講演会

「NHK記者が見たアフリカ諸国の問題と展望」報告



6月25日（金）、JICA 地球ひろばにて ARC 主催の講演会を行いました。題して「NHK 記者が見たアフリカ諸国の問題と展望」です。3月まで「NHK 海外ネットワーク」のキャスターを務め、現在は国際部に所属する長尾香里記者をお招きし、アフリカ取材の経験とそこから見てきたアフリカ諸国の今後の姿についてお話頂きました。平日にもかかわらず40名の方にお越しいただきました。

以下、講演内容を簡単にご紹介いたします。

なぜアフリカを取材しようと思ったのか？

記者歴10年を超え、自分にとって未知の地域の取材をしたいと思いたち、「アフリカ」に向かったのが7年前。当時は“貧困”や“紛争”のイメージの強かったアフリカですが、実態はどうか、知りたかったからです。初めてルワンダに入ったのもこの時。ARCが様々な情報提供をしてくださり、そのご縁がきっかけで今回の講演会に参加させていただくことになりました。

アフリカ成長の胎動

初のサッカー・ワールドカップ開催の盛り上がり象徴されるように、アフリカは現在急速に成長しています。それを支えるのはアフリカにおける中間層の拡大。購買力を持ちはじめた人々が、重要な市場を形成し、外国企業などの投資先としても注目されています。



また BOP (Bottom of Pyramid) ビジネス、つまり低所得者層向けのビジネスも広がりを見せています。たとえば、オランダの大手家電メーカーが、太陽電池を使ったランプの売り込みを図っているのもその例です。年間数百ドルの収入で暮らす低所得者の人たちは、ランプの代金を一括で支払うことはできなくても、少しずつ分割で後払いするシステムにすれば、購入することができます。こうした方法で家々にランプが普及したある村を訪ねましたが、日が落ちて暗くなると床に入るしかなかった子どもたちが、夜でもランプの灯りのもとで一生懸命勉強していました。企業にとってはモノが売れ、低所得者層という新たな市場を広げること

ができる一方で、このビジネスが結果的に、灯りのない暮らしをする人々に光を与え、教育の機会を増やす効果を生んでいるのです。Win-Win のモデルだな、と感じました（この事例に関しては、長尾さんがガーナの村の事例を取材し、放映した番組のビデオも用いてお話頂きました）。



この他、注目すべきは“チーター世代”と呼ばれるアフリカの若いリーダーたち。チーターのように果敢に、スピード感をもって社会の変革と貧困脱却、起業などを目指す人々のことで、主に、欧米への留学を経験した人、紛争などで先進国で亡命生活を送った後、本国を復興しようと戻ってきた“海外帰国組”の人たちがその柱をなしています。ルワンダやナイジェリアなどでこうした人たちの活躍が顕著で、彼らの活躍がアフリカの今後の成長に大きく影響を与えていくのではないかと感じました。

世界はアフリカをどう見ているか？

世界は、今、「可能性の大陸」としてアフリカに注目しています。キーワードは「資源」と「農業」です。

アフリカは、石油などばかりでなく、レアメタル（希少金属）など資源の宝庫です。アフリカの資源がにわかに脚光を浴びるようになった背景には、中国やインドなど新興国の経済成長があります。新興国が成長を続けるには資源が必要です。旧来の資源消費国である先進国との争奪戦が始まっているのです。資源開発の獲得を目当てに、アフリカ諸国に経済支援や投資をつぎ込む国も

目立っています。特に、中国の存在感の増大は著しい。ただ、中国は、人権侵害などで国際的な批判を浴びている国（スーダンなど石油埋蔵国）にも支援を行うなど、そのやり方には批判的な声もきかれます。こうした中国の進出とは対照的に日本の支援は存在感を失いつつあります。今後アフリカにおいて日本はどんな貢献を行い、存在感を持つことができるかは課題になりそうです。

また農業の面でも、アフリカは世界の穀物庫として注目を集めています。オイルマネーの投資先としてサウジアラビアなどの産油国が膨大な資金を農業インフラに投入しています。アフリカの大地を耕作地に変え、食糧生産にあてようという狙いです。飢餓や干ばつのイメージがつきまとうアフリカが、一転、食糧の輸出基地になる、そんな日がくるかもしれません。



アフリカの課題と今後

現在新たな不安定要素となっているのがアフリカに広がる格差の問題です。格差には国家間の格差だけでなく、一国内の格差もあります。資源を持つ国と持たざる国の間では発展のチャンスは大きく違います。国内でも、ビジネスに成功する者、依然インフラのない農村部で貧しい生活を送る者。こうした格差の是正が大きな課題になると思います。ルワンダを始め、アフリカを何カ国か回って実感したのは、成長のもっとも重要な要素は、治安、平和だということです。内戦をたびたび繰り返すような国、政府が腐敗して汚職が横行するような国は、なかなか経済的チャンスをつかむことができません。いかにして国が秩序を保つか、これは重要な問題です。

—*—*—*—*—*—*—*—*—*—*

最後に質疑応答の時間を設け、「日本のメディアの在り方」や「日本のプレゼンス力」に関してなど、たくさんの質問が上がりました。予定していた時間いっぱいまで回答頂きました。1時間半のプログラムでしたがとても内容の濃いものになりました。

長尾さん、ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。またこのような有意義な活動ができるよう ARC は活動に邁進していきます！

《参加者のアンケートより》

- 日本のプレゼンスが低いという点と、取材に関して取材費がかかってしまう点が印象に残りました。
- 出席者の方等、長尾さんを含め、色々な方のアフリカに対する疑問や、想いを知れてよかったです。

- 多分野にわたるお話で大変勉強になりました。
- 今まで持っていた知識に加え、より深くアフリカについて知ることができました。これからの学びに活かしていこうと思います。
- まだまだ知らない「アフリカ」を知った。
- このようなアフリカの実情を知る機会は少ないので本当に良かったです。
- 取材を通しての話で分かり易く、興味ある指摘もあり、勉強になりました。格差（国家間についても、国内についても）の問題は呈してどのように乗り越えてゆけるのか、難しいことであることを痛感させられました。
- 大変おもしろかったです。勉強になりました。もっとアフリカについて知りたくくなりました。ありがとうございました。
- 私の母国パキスタンとアフリカ諸国の問題が共通していると講演を通じて認識しました。格差、中国の投資、汚職など。なので、アフリカ諸国の問題解決が、パキスタンの問題解決のモデルケースになるのかと感じました。
- 今度、日本のメディアを変えていってほしいです。メディアの存在価値をどう活かすかが問われていると思います。
- 大変興味深かったです。NGOの方からの講演は度々聞きましたが、メディアの方は初めてでした。大変新鮮でした。取材に基づく具体的な意見が参考になりました。ありがとうございました。
- ルワンダの紛争地域が、若い人たちを含め元気に頑張っているのだと知ってとても興味深かったです。
- 過去の実際の取材映像が紹介されたので、具体的で分かりやすかった。質疑になると取材で積み重ねた言葉に魅力があって興味深かった。今後も良い講師の講演会に期待しています。



《今回の講演を終えて》

この講演会は初めて担当者として参加したイベントでした。長尾さんとの顔合わせに始まり、当日を迎えるまで、振り返ってみるとあっという間でした。アフリカンフェスタやこの講演会を通して、アフリカだけでなく、

ARC という団体に興味を持ってくださった方がいらっしやうたことがとても嬉しかったです。この講演会の運営を通して ARC のチームワークを改めて実感できたことも良かったと思います。とにかく、無事講演会が終了して良かったです。ご来場の皆様、長尾さん、ご協力くださった皆様。どうも有難うございました。下半期も盛りだくさんの内容で頑張っていきます！！

ARC スタッフ 吉川ゆかり



アフリカ平和再建委員会

Africa Reconciliation Committee: ARC-JAPAN

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-6-1 四谷サンハイツ511

Tel/Fax: 03-3351-0892 E-mail: headoffice@arc-japan.org

ホームページ <http://www.arc-japan.org>